日本共産党
池田ファンクラブ・ニュース　284号
あした天気にな～れ　2025年5月号
部内資料
発行責任者　太田　勈　(62-5727)
議員連絡先　薄井　孝彦　(62-5093)
服部　久子　(62-4357)
編集責任者　山本　久子　(61-1066)

災害に備えて・・・

近年、日本をはじめ世界各地で大規模な災害が多発し、つい先月も池田町でも震度4の地震を経験しました。

いざという時に備えることが緊急に求められています。そこで防災の専門家であり、県内各地で活躍しておられる三丁目の宮沢洋介さんに、原稿をお願いしたところ快く引き受けていただきましたので数回にわたり連載いたします。

『災害の伝承』が最高の防災

私の生地は旧陸郷有明（うみお）、池田からは登波離（とはり）橋を渡って犀川のみえる所で、近年は桜仙峡（おうせんきょう）などともいわれ桜の名所となっている。

町村合併で陸郷村の一部が池田町に合併したため、小学校は池田に通うことになった。陸郷は地すべりなどの土砂災害が多く、大雨の時には道路崩壊で学校に通えないこともあった。

（写真は平成16年台風23号、陸郷地区町道の地すべり災害）

二年生の時には風の強い伊勢湾台風が池田町近くを通過して、木が大きく揺れ、校庭が水浸しになっているのを窓からじ～っとみていた。おそらく池田町にきた一番おおきな台風だと思う。五年生の時に焼岳が噴火して、池田町にもうっすらと灰が積もった。

焼岳はそれまで大正池を造るなど活発に活動していたが、それ以来噴火はしていない。中学は部活などで通学が大変なため池田町内に住むようになった。この頃松代群発地震が発生し三年生の頃には震度4くらいの揺れがあった。

目の前の壁が一瞬平行四辺形になり、日本の木造家屋はすごい柔軟性があると感じた。度重なる地震のため震度をあてるゲームを行った記憶がある。震度の発表がいまより大分遅かったと思う。揺れたら座布団を頭にかぶり机の下に入るなど、訓練ではなく実際に行った。池田町でも四丁目の西側が水浸しになったという。宮沢洋介

（次号に続く）

宮沢洋介さんの連載が始まりました。「感想」や「聞きたいこと」などありましたら、ファンクラブ役員までご連絡ください。

読者の声・・・

「ともに　あたらしく」

ある日、信毎の一面に「同意も避妊具もなかった性交渉」という見出しの記事が載っていてびっくり。高校の保健室で自分のセックスについて赤裸々に語っている内容だった。

この記事は「ともにたらしく～ジェンダー地域から」という連載の記事です。自分が現役時代「性と生」について児童と接していた頃を思い出し、タブー視されていた性の問題もここまで来たかと驚きと進歩を感じた。

あの頃の性教育は「寝た子を起こすな」と言うことで「性交」という言葉さえ使えない時代だった。

妊娠がどんな状態で起きるかも知らない子どもたち。「十代の妊娠」が問題になっていたにもかかわらず学校での性教育は進まなかった。

一般にジェンダー問題と言えば直ぐに思いつくのは家や職場での男性優位の事で女性の地位向上問題です。しかしこの連載では母体保護法が取り上げられていて、女は子どもを産んで当たり前という常識に異議を申し立てる女性たちの声が掲載されている。

妊娠は国が管理するものではない、自己決定出来ないのはおかしいと多くの女性たちが声を出していることに対して、画期的な事であり、共感を覚える。

連載の記事の中に『「好き」の搾取』という言葉があるが、まさにこれにかかってしまうと「ダメ男」だと思ってもついつい言いなりになってしまうと思う。

若者たちには、性の問題だけでなく「じぶんらしく」と言う決断力を持って進んでいってほしいと強く願っています。

皆さんもこの連載を読んで考えてほしいものです。

（N・M）

文芸欄　今月は俳句です

菅笠の見えかくれして初夏の風　美ちこ
ひと日終え湯に浸かり聞く蛙合唱　幸代
語り継ぐ池田の民話花筏　八十路婆

物価高騰から暮らしを守る緊急提案

物価高騰が暮らしと営業を直撃しています。加えて「トランプ関税」への不安が強まっています。日本共産党は3点の提案を発表しました。

一．消費税の廃止をめざし、緊急に5%に引き下げる

言うまでもなく低所得層ほど負担が大きくなるのが消費税。アベノミクスで消費税は2度も増税されました。消費税を5%に減税すればインボイス制度導入の根拠もなくなります。

与野党含めて様々な減税の声が上がっていますが、その財源論に大きな差があります。共産党は539兆円を超える大企業の内部留保や大金持ちの減税の是正や、増え続ける軍事費を減らせば財源はあると主張しています。

12日の予算委員会で辰巳孝太郎議員の質問に、石破首相は「国債に頼らない恒久減税の志位議長の発言に感動」と答弁、ならば政府自ら提案すべきです。

二、物価高に負けない賃上げと物価にふさわしい年金に。

「賃上げは好調」と政府は言うが、実質賃金はピーク時（1996年）から年額74万円も減っています。年金は100年安心どころか「マクロ経済スライド」によってこの13年間で公的年金は実質8．6%も減少しました。ここでも大企業の内部留保課税により中小企業支援、物価上昇に見合う年金が実現できます。

三．物価高騰による医療介護の経営危機・提供基盤の崩壊を食い止め、ケア労働者の賃上げをはかる緊急措置を。

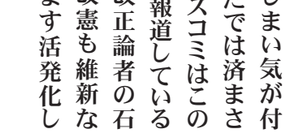
「ある日突然、病院・介護施設がなくなる」「地域医療が崩壊寸前」といった事態に衝撃が広がっています。

これには緊急に国債500億円の投入を提案。5年間で43兆円も投入する軍事費に回すか、命と暮らしに回すかの選択が迫られています。

共産党議員の活躍に期待します！

5月9日開かれた池田町議会臨時会で薄井孝彦議員が副議長に選出されました。

薄井さんは「議会改革に取り組まなければいけない、議長を補佐し頑張りたい」と述べました。同時に常任委員会の人事も決まり、党の二人の議員は以下の委員となります。



薄井孝彦＝総務福祉委員会・議会運営委員会（アドバイザー）予算決算特別委員会・議会改革等特別委員会委員長、北アルプス広域連合議員池田松川施設組合議員、

服部久子＝振興文教委員会・議会運営委員会・予算決算特別委員会・議会報編集特別委員会福委員長・議会改革等推進特別委員会・北アルプス広域連合議員・

それぞれ任期は二年間、活躍を大いに期待します。

コラム　有明

「科学者の総意の下に、わが国の平和的復、人類の福祉に貢献し」学術が政治に従属し戦争遂行に加担した痛苦の反省に立ちつくられた日本学術会議の前文である▼「戦争を目的とする研究は絶対に行わない」としてきた同会が大きく変質されようとしている。9日、内閣委で現行法を廃止し、今まで独立・自立して運営されてきた会を政府が理念や会員選考、組織のあり方まで監督下におく内容の学術会議法案が実質審議3日（20時間弱）というスピードで自、公、維3党により多くの学者や国民の反対する中強行採決された▼戦争を目的とする研究は絶対しないと誓い、人類の平和を願う学者の心を踏みにじっている▼突出した軍事費、右寄り議員の歴史を改ざんする発言、安倍内閣以来戦争する国づくりの動きが非常に高まっている。怖いのは国民がこれらの動きに慣らされてしまい気が付いたら戦争になっていたでは済まされない。遺憾ながらマスコミはこの問題を危機感をもって報道しているとは思えない▼憲法改正論者の石破首相のもと、9条改憲も維新などを巻き込んでますます活発化しそうで注意が必要だ。